

ゲッチンゲン医学古典文庫

〔来歴と概要〕 本文庫の所蔵図書は、ドイツ・ゲッチンゲン大学図書館がハノーファー侯（英国王・ジョージII世）から寄贈され、所蔵していた古典的医学書である。一五世紀から一八世紀におよぶ解剖学、生理学、外科学、産婦人科学、眼科学、軍陣医学、流行病学などの主要な文献をふくみ、さらにはギリシア医学、アラビア医学などの主要な典籍がみられる。その一例をあげればウィリアム・ハーヴェイの“De motu cordis”や、アンドレアス・ヴェサリウスの“Fabrica”などである。

一九一二年に倉敷労働科学研究所の暉峻義等が、ライプチヒの書肆グスタフ・ホックの紹介で、ゲッチンゲン大学からこの古典医学書群を入手した。この折にライプチヒ大学医史学教授カール・ブードホッフが鑑定の方をとったという。時あたかも第一次世界大戦後の大恐慌期で、ゲッチンゲン大学は財源確保に資するため図書館蔵書の一部を外国に売却する意向があり、マルクの価値が大暴落したこともおおいに助けられて購入に成功した。この快挙に英断をくだしたのは、倉敷美術館の大原コレクションなどの文化事業に尽力していた研究所創立者の大原孫三郎である。この古典書籍群は翌一九二三年一月に倉敷に到着した。

その後研究所の移転にもなつて幾度かその所在を変更したが、一九七一年四月からは研究所が川崎市に移転するにともない、図書館も整備されて移転した。

一九九九年二月には、研究所の関連機関である倉敷中央病院の創立七五周年記念事業の一環として、本文庫がここに移管され、現在はこの地に収蔵されている。

目録発刊を期に、本文庫は「ゲッチンゲン医学古典文庫」と命名されたが、われわれはこれを親しみをこめて「労研ゲッチンゲン文庫」とよんでいる。

〔蔵書目録〕 『ゲッチンゲン医学古典文庫目録』 労研古典医学文庫目録刊行会編 二巻 二四二ページ、三七〇ページ 菜根出版 一九七七年。第一巻は二六四八番におよぶ図書目録。第二巻は主要文献（二七一部）のタイトルページなど。

〔所在地〕 岡山県倉敷市美和町一―一― 倉敷中央病院 図書館 千七二〇―〇五二 電話〇八六四―二二―〇二一〇

〔利用法〕 事前に関覧許可願を提出のこと。貸出は不可。複写や写真撮影は書籍の状態による。

（深瀬 泰旦）